

# 知ってほしい

けい

# 「子宮頸がん」

## ワクチンと検診で守ろう、自分のからだ

子宮頸がんを防ぐ、ヒトパピロームウイルス(HPV)ワクチンの積極的な接種勧奨が4月から、9年ぶりに再開されました。これを受けて長野県細胞検査士会などが進める子宮頸がん予防啓発キャンペーン「愛は子宮を救う」では5月1日、この病気やワクチンについての理解を深めてほしいとトークイベントを長野市内で開催。オンラインでも配信しています。医療関係者や治療経験者、教育現場など8人が参加したイベントの概要をお伝えします。



## 若くてもかかるがん、早期発見が大事

子宮頸がんは、20〜40歳の女性のがんでは最も多く、日本では年間約1万人がかかり、約2700人の方が亡くなっています。しかし、日本の検診受診率は低く、20代で20%、30代で40%ほど。私自身も多くの患者さんを見てきましたが、妊娠して初めて産婦人科を受診し、子宮頸がんが見つかることも少なくありません。また、子宮頸がんは診断されて妊娠・出産がかなわなかった女性が年間1200人くらいいるといわれています。



長野赤十字病院(長野市) 産婦人科医師  
**山本 かわりさん**

子宮頸がんは、ヒトパピロームウイルス(HPV)に感染し、その状態が続いてしまうと、がんの手前の状態である細胞の「異形成」や上皮内がんという状態を経て、進行がんになっていきます。がんの手前の状態で発見できれば、ほぼ100%治りますし、子宮も残せるので妊娠・出産もできます。一方で、進行したがんになると子宮や周辺組織をすべて取らなくてはなりません。手術後に後遺症が残ることもあります。HPVの感染からがんになるまでには約10年〜20年かかるといわれています。また、早期にはほとんど症状がありません。ですから定期的に検診を受けて、がんの手前の段階で早期に見つけることが大切です。

## 検診受診率が上がらず心配



子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は地球を救う」実行委員長 南長野医療センター・篠ノ井総合病院(長野市) 細胞検査士  
**中村 恵美子さん**

私たち細胞検査士は、検診などで採取された細胞の中に、がんになっているものや、がんにならない細胞がない

かどうか、顕微鏡を使って調べる仕事をしています。私が働いている病院でも、実際に年間60人以上の子宮頸がんの患者さんが見つかっています。若い女性に子宮頸がんが多く見つかるようになってきている現在の、ワクチン接種率の低さはもちろんのこと、検診の受診率が上がっていないことがとても気になっています。

## 予防効果高い ワクチン接種を



増田医院(長野市) 小児科医師  
**増田 英子さん**

HPVはごくありふれたウイルスで、女性にも男性にも感染します。女性では子宮頸がん、男性では喉の奥のがんや陰茎がんなどの原因になります。いま日本でも外国でも接種が行われている「HPVワクチン」は、ウイルスの感染を防ぐことで、子宮頸がんの予防につながります。初めての性交渉の前に接種しておくことが最も効果的です。16歳までに接種す

ると将来の子宮頸がんを9割も防ぐというデータもあります。小学6年生から高校1年生までの女子は無料でHPVワクチンの接種を受けられます。情報がほとんど届かなかった高校2年生から25歳くらいまでの年代には、国の救済措置として「キャッチアップ接種」今年から3年間だけ無料で受けられます。対象者にはお知らせが届く予定です。HPVウイルスは主に性交渉で感染しますから、男子のワクチン接種も望ましいです。男性の接種は日本では今のところ有料ですが、世界を見ると、性別を問わず無料という国が増えてきています。

## 自分の身体を守る 意識づくりを学校で



長野市立川中島小学校 教頭  
**鈴木 亜希子さん**

私が以前、受け持っていた子たちは、積極的に接種を勧められなかった世代なので、その子たちにHPVワクチンの情報を届けたいと思っています。また、私の娘はワクチンの接種対象年代な

ので、接種について話し合いました。学校では、さまざまな保健の検査や行事があります。がん教育も始まっていて、自分の健康やからだを考える機会があります。しかし、保健の授業は小学校では年間8時間程度しかありません。その限られた時間に、子どもたちが自分のからだを守る意識を育み、それを入口に、自分でも調べて、知って、行動できるような指導ができればいいなと思っています。

## “自分事”として 聴いてほしい



こてつ(吉本興業長野県住みます芸人)

**北村 智さん**



**河合 武俊さん**

北村 僕の知り合いの女性が子宮頸がんにかかり、もう妊娠できないと聞きました。妊娠・出産だけが人生ではないですが、若くしてその機会を奪われてしまった。この場での話も、関係

河合 ワクチンで予防できる。そして早期発見が大事なのに、検診を受ける若い人が少ない。学校のわずかな時間でどれだけ伝えられるか、だけでなく、どれだけ自分事として聴けるかが大事だと思います。



## 子宮頸がんの治療経験から

### 検診のおかげで早期発見、復帰も早く

ボサノバフルート奏者 **赤羽 泉美さん**(上伊那郡辰野町)

私は、20代後半に乳がん検診に行き、年齢的には子宮頸がんの方が心配だからと検診を勧められました。以後、定期的に検診を受けていたおかげで、32歳のとき、細胞がんになりかけている初期の段階で見つけてもらえました。円錐切除術という患部を切り取る簡単な手術で済んで、入院は3泊4日だけ。2週間安静にした後は、レコーディングやライブなど以前と同じ音楽活動を再開できました。



### 自覚症状で気づいたときには進行

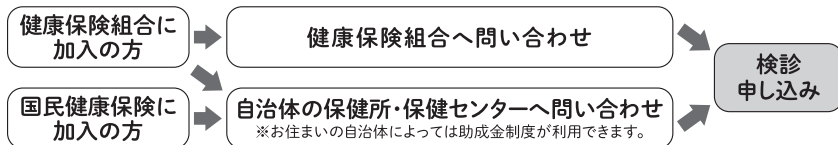
飯田女子短期大学 教授 **鈴木 真由美さん**(飯田市)

私は子宮がん検診を受けておらず、36歳のとき、生理でもないのに出血があって婦人科を受診しました。すぐに大きな病院で検査を受け、進行がんと分かりました。手術で子宮と周辺組織をすべて切除。転移もあったので抗がん剤治療を受けて、半年は動けませんでした。今こそ元気になっていますが、当時は若い娘たちを抱えながら、死も覚悟しました。皆さんには正しい知識を得て、正しい行動をとってほしいです。



自分で守ろう、自分のからだ 子宮頸がんは「予防できるがん」  
ぜひ定期的な検診を

子宮頸がん検診を受けるには?



「愛は子宮を救う」ホームページ [www.love49nagano.com/](http://www.love49nagano.com/) で 県内の検診実施医療機関一覧を見ることができます!



check!